

平成 30 年度 武雄市立川登中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点方針
自立の精神に満ちた 豊かな人間力の育成	(1) 確かな学びの充実 (2) 豊かな人間性と社会性の育成 (3) 生徒自らの活動の推進 (4) 地域との共生と創造性の育成



3 目標・評価						
(1) 確かな学びの充実						
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	担当分掌	主担当
教育活動	●学力向上	基礎・基本の習得と活用を図る指導	◇学習状況調査等において全教科県平均を上回る。	・数学（全時間）・英語（週2時間）においてはTTあるいは少人数指導を行う。 ・放課後補充学習を積極的に実施し、補充学習を充実させる。	学力向上コーディネーター	中島
		家庭と連携した学習環境づくり	◇平日の家庭学習時間が2時間以上になる生徒の割合を65%（H29-58%）に向上させる。 ◇「家で、学校の宿題をしている」と答える生徒の割合85%（H29-77%）以上をめざす。	・「学びの学習会」において、自分の学習方法について吟味改善する機会を年2回設定する。 ・生活習慣アンケートを行い改善点を見出し、その対策について全職員で取り組む。	学習習慣・環境部	大谷
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	◇タブレットPCを使った学習時間（スタディアプリ）を年間100回以上行う。 ◇電子黒板とタブレットPCを連携させた学習を充実させる。（スタディノート10の活用）	・タブレットPCの有効活用についての研究を深める。 ・プログラミング学習にPepper利用により取り組む。 ・電子黒板と生徒用タブレットPCを活用した授業研究会を実施する。	情報教育推進リーダー	中島
(2) 豊かな人間性と社会性の育成						
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	担当分掌	主担当
教育活動	●心の教育	人権・同和教育の推進	◇講師招へいによる職員研修を年2回以上実施する。 ◇人権をテーマにした学活や道徳の授業を全クラス1回以上行う。	・QUにより学級集団や生徒の状態を把握し適切な支援を行うことにより学校生活満足度の割合を向上させる。 ・全生徒が人権作文・標語に取り組むよう指導する。	人権同和教育	淵上
		特別支援教育の推進	◇共通理解のもとでの支援ができるように生徒理解のための職員研修を年3回実施する。	・アンケートや教育相談による情報の収集および保護者等への情報の提供を行う。 ・特別支援教育委員会を適宜開催し学校全体での支援体制を充実させる。	特別支援教育コーディネーター	古田
	●いじめの問題への対応	道徳教育の充実	◇全学級「道徳」の授業を保護者等に公開する。 ◇特別の教科「道徳」実施に向けた研修会を年2回以上実施する。	・道徳の授業年間35時間にしっかりと教師が取り組む。 ・講師招へいによる道徳の教科化に伴う職員研修会を行う。 ・特別の教科「道徳」の完全実施に向けた準備を整える。（評価方法や通知表様式改訂など）	道徳教育	山口
		規範意識の向上を目指した指導の充実	◇「学校に行くのは楽しいと思う」という問いに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合80%（H29-73%）以上をめざす。	・「学校生活アンケート」を定期的に行い、その結果内容を全職員で共有して対処しいじめ撲滅をめざす。 ・授業規律や生活ルールを守ることを徹底させ、生徒の落ち着きのある学校生活をめざす。	生徒指導	山下
(3) 生徒自らの活動の推進						
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	担当分掌	主担当
教育活動	○生徒の自己肯定感を高める指導の工夫	学校行事等への生徒の参画意識の向上	◇体育大会などの学校行事に積極的に参加したと答える生徒の割合93%（H29-91%）以上をめざす。	・生徒中心の実行委員会を設置し、生徒の自主的な運営が促進されるよう支援を行う。 ・生徒会による企画運営の機会を多く与える。 ・運営上のできるだけ生徒に任せられるよう環境を整える。	生徒会	大谷
		部活動の推進	◇部活動が充実していると答える生徒の割合80%（H29-75%）以上をめざす。	・顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動の内容を充実させ競技力等の向上をめざす。 ・臨場による指導を増やし練習態度の向上をめざす。	体育主任	西山
	●健康・体づくり	朝食喫食率の向上	◇「朝食を毎日食べている」生徒90%（H29-86%）以上をめざす。	・朝食の大切さについての学習や掲示板などによる啓発を積極的に行う。 ・食育たよりなどで家庭への協力も呼びかける。	食育・給食指導	森
(4) 地域との共生と創造性の育成						
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	担当分掌	主担当
学校運営	○地域と学校の協働による学校づくり	地域と学校の相互の関わりを深める教育活動の推進（コミュニティ・スクール）	◇地域人材を活用した授業や行事を年5回以上実施する。 ◇情報公開を推進し、学校HPの更新回数を100回以上行う。	・学校運営協議会を開催し地域人材を生かした教育実践ができるような環境を維持発展させる。 ・学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供する。 ・学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。	コミュニティ・スクール	教務教頭
		伝統や文化の理解・継承・発展を図る教育活動	◇各地区の伝統芸能を体験させる機会を設ける。	・地域の方を講師として招へいし郷土芸能を指導してもらおう。		
		関係機関との連携強化	◇地区公民館やまちづくり協議会と連携した取り組みを3つ以上行う。	・町民運動会は学校行事として参加させる。 ・地域奉仕活動に生徒会を中心に組みこませる。 ・地域行事に生徒を参加させるために学校行事や部活動の時間を配慮する。		
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の連携促進	◇明るい職員室づくりを目指し、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	・朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、職員間のフォロー体制を強化する。 ・会議や事務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。	総務	教頭
校務処理の効率化		◇校務に関する電子媒体の更新・改編作業を推進し、実情に即した内容にすることで、校務のさらなる効率化を行う。	・通知表、指導要録等の作成ファイルの内容を改編・更新する。 ・全職員が校内グループウェア、SEI-NETなどの有効活用するよう啓発する。			

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目